

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について（三崎小学校「グローバル表現科」）

○特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（1）実施状況

計画通り実施できている。

（2）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

年度初めの保護者会において説明の場を設けたり、学校だよりを中心とした発信を随時行ったりしている。このことにより、学校だけでなく家庭や地域の協力によっても特別の教育課程の編成の効果が上がっていくことを目指している。

○実施の効果および課題

（1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

グローバル化や多様化が急速に進む現代社会において、郷土三崎を愛し、多種多様な文化や考えを尊重した豊かな国際感覚を身に付けた子の育成を目指している。

様々な国の文化に触れることで、国際感覚を少しずつ身に付けていくことはもちろん、改めて郷土三崎のよさについても理解し、愛する心を育むことができた。

取組も2年目に入り、学年ごとの教科目標や評価規準についても整理しているところである。

（2）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校は「自ら学び、心豊かにはばたく子 ～自ら考え、他者と合意形成を図りながら解を創り出し、生涯にわたって学び続ける力の育成～」を学校教育目標としている。

多種多様な文化や考えを尊重し、豊かな国際感覚を育てることは、学校目標に掲げた「生涯にわたって学び続ける力」の育成に大いに役立っていると考ええる。

多種多様な文化に触れることについては、姉妹都市のあるオーストラリアの文化を学んだり、台湾や香港の小学校とのオンライン交流をしたり、台湾の小学校が訪日旅行をした際に文化交流を行ったりした。また他国の文化を尊重するためには、日本や郷土三崎の文化を尊重することも同様に大切だと考える。日本舞踊体験、全校大漁旗づくり、伝統芸能「いなりっこ」や世界無形文化遺産「チャッキラコ」の児童参加・見学などを行い、学校目標の具現化を図った。

○課題の改善のための取組の方向性

特設1年目の令和5年度は、取組時数の関係で高学年に集中する傾向があった。2年目となる令和6年度は、全学年で年間35時間を確保し、全校での取組を充実させた。

言語については、英語に絞るのか、それとも他言語も含めていくのか、という課題があった。また、小学1年生からアルファベットや発音・文法といった英語力を伸ばすことに重きを置くべきなのか、それともコミュニケーションの手段として英語力の育成に特化すべきなのか、ここでも思い悩んだところがあった。

しかし、香港や台湾をはじめ、英語圏以外の国、地域

とも交流を進めていくなかで、「英語は世界の共通言語」といっても、必ずしも英語だけでコミュニケーションが成り立つとは限らない実態が目の前の子どもたちを通じて見えてきた。たとえ

ば、本校児童は必ずしも英語が好きな子や得意な子、コミュニケーションを図ることが好きな子たちばかりではない。交流を進める香港や台湾の小学生も同様だった。英語が全く話せない子や話そうとしない子もいるし、コミュニケーションを図ることが苦手な子もいる。「共通言語である英語」でコミュニケーションを図ることが難しい場合、ジェスチャーやイラスト、それに私たちの共通文字である「漢字」などを用いてお互いを分かり合おうと試みた。このようにグローバル表現科では英語を基本としつつ、英語圏以外の言語や、言語に依存しないコミュニケーションについても大切にしたいと考えている。